

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」 <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間を十分に確保できていない。児童が意欲的に学習できる授業が少ない。	⇒ 授業の最後に習熟を図る時間を確保する。【毎時間】 ドリル・ワーク等を活用し、漢字や基本的な計算を反復・習熟する時間を確保する。【(業前、週に2回)】 GRIT目標等を活用し、粘り強く意欲的に学習に取り組めるようにする。【学期に1回見直し】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」 <指導上の課題> 協働的な学習が効果的に行われていない。学習を振り返る時間が十分に確保できていない。	⇒ 協働的な学習を行う際は、課題を明確化し、学びを深める。また、ICT・思考ツールの活用により思考の可視化を図る。【毎回実施】 時間の確保、タブレットの活用、ワークシートの工夫等により、振り返りの時間を充実させる。また、友達のと自分の考えを比較した内容を記録に残すことができるようにする。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		① 結果分析(管理職・学年主任等) ② 詳細分析(学年・教科担当) ③ 分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が学校全体の課題であったが、今回の全国学力・学習状況調査においても漢字については正答率が低く課題がみられた。全体的に無回答率が高いことも課題である。 算数では、棒グラフの読み取りや小数の計算の問題においては正答率が上がり、向上がみられた。台形や角の大きさ等「図形」の問題や分数の計算の問題においては昨年度と同様に正答率が低く課題がみられた。 「国語・算数の勉強は好きですか」の質問項目における肯定的な回答が、国語が64%、算数は62%であった。昨年度と比較して、算数は向上したが、国語は下がっており、意欲的に学習に取り組める工夫が必要である。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題において課題があったが、改善がみられてきた。「読むこと」の問題で正答率が低く、時間的な順序や事柄の順序を考える問題や事実と感想、意見等との関係を基に要旨を把握する問題に課題がみられた。 算数では、引き続き「図形」「変化と関係」に課題がみられた。特に面積の求め方を記述する問題や、伴って変わる2つの量の求め方を記述する問題の正答率が低かった。また、百分率を倍を使って捉え直し表現することにも課題がみられた。 「学習した内容について見直し、次の学習につなげることができますか」の質問項目における肯定的な回答が90%であったことから、学習の振り返りが身に付いてきたと考えられるので、今後もさらに充実させていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	授業の最後には、学習内容を確認する時間、定着させる時間を確保することができ、概ね目標通りだった。 週に2回程度、漢字や基本的な計算の反復・習熟する時間を確保することができた。 GRIT目標については、一人ひとりが取り組みたい内容を設定することができた。
思考・判断・表現	B	課題、目的を明確化することを意識して協働的な学習を進めることができた。 振り返りの時間を確保し、ノートやワークシート、エクセル等を活用して学習の振り返りを行うことができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)